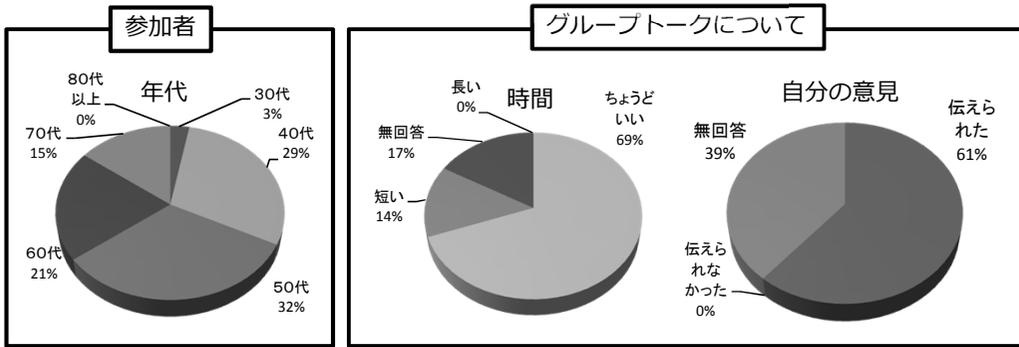


平成28年度第2回地区集会参加者 アンケート集約結果



◆グループトークで伝えられなかったこと

- 子どもの居場所づくりと施設管理の兼ね合いをどうつけるか。現場で話し合いながらルール作成できたらよいと思う。
- 家に帰っても話す相手がいない子どもが多い現在、子どもは大人とのコミュニケーションを欲していると感じる。
- 具体的に、しおさいセンターを子ども居場所として整えていったらいいのでは無いでしょうか。
- 子ども達を見守る環境を作るためには、シニア世代に頼るだけでなく、現役世代が積極的に関与することが大切だと思います。
- 片瀬山コミュニティハウスが10月にオープンして小学生が来ている。
- みなさんととても寛大に、子ども達を見守ってくださっていて、実際マナーの悪いこともあり、ご迷惑をおかけしています。
- 学年ごとに校庭優先日を設ける。地域の大きな公園にローカルルールを設ける。
- シニア世代からは、見守り役は大勢いるという心強いご意見をいただき、未来は望みがあると思いました。
- 「地域で子どもたちを育てよう」という熱い心に感動しました。
- 子どもを応援する活動に、より多くの方が参加できるような仕組み（担い手づくり）を充実させると、より活発な地域づくりにつながると思いました。
- わかりやすいルール作りも大切ですが、子どもたちが自分たちで考えて、マナーを守っていく、しつけや教育がもっと大切だと思います。
- ルール作りの場に子どもも参加するのはどうでしょう。公園に限らず、この場に子どもがいるといいですね。来年度は、子どもの参加も希望します。社会参加意識の形成にもつながると思っています。
- 班の人たち、熱心に話し合いました。とても参考になり、良かったです。

◆今後とりあげてほしいテーマ

- 子ども学習支援
- 子どもの放課後の居場所。継続的なテーマだと思います。
- 放課後だけでなく夏休みの子どもの過ごし方も考えていってもらえたらと思います。
- 子どもの安心・安全な環境づくりについて
- 年代別の育て方を。楽しく。我慢も必要。
- 高齢者対象とした避難（訓練）をどうするか。
- 地域での見守り力を高めるにはどうしたらよいか？
- 異世代交流で地域を盛り上げ、足りないところを補いえるようなシステム。子どもだけ、高齢者だけのテーマにせず、混ぜ込んでしまえばいいと思う。

◆日頃感じている地域の課題・意見

- 子どもの居場所、遊び場所があると良い。
- アンケートでは、公園遊びの割合が多かったですが、日々の様子をみると少なく思う。これも目線での遊びやすい環境づくりが課題に感じる。
- 子どもの育ちは、大変気になっている。子どもの姿が公園に少ないことです。「子どもの声がうるさい！」の声がある中、子どもの声があふれるまちづくりを様々な検討していきたいと日頃感じています。
- しおさいセンターに居ることもへの注意の仕方について、もう少し、子どもの気持ちに沿ってほしいと思います。
- 防災対策
- 市のチャイムと子どもの家の閉館時間があっていない月があるので合わせてほしいと思います。
- 学校施設の新旧の差異が地域によってあると話を聞きます。状況の見える化が必要だと思います。
- 放課後の居場所と同時に、不審者対策など、こどもの見守りも緊急課題だと思います。
- 担い手が少ない。ボランティアを増やしたい。
- 小学生、中学生がドロップアウトすることは、地域の安定性と直結します。小中学生がよく学び、遊び、友達をつくるようになることが、「人の和」づくり未来をつくることになると思っています。



片瀬・江の島まちづくり協議会



第二十四号

発行日 2016年(平成28年)12月10日
発行 片瀬・江の島まちづくり協議会
(片瀬地区郷土づくり推進会議)
発行人 会長 長谷川 紀夫
事務所 片瀬市民センター内
0466-27-2711 FAX0466-25-8907
fj-kata-city.fujisawa.lg.jp
片瀬地区ポータルサイト
http://fujisawa-katase.ecom-plat.jp/

地区集会

小学生の放課後の居場所はどこ？

片瀬・江の島まちづくり協議会では『片瀬・江の島っ子の未来を語り合おう！Part.2※』～小学生の放課後の居場所はどこ？～』と題して、10月29日(土)片瀬市民センターにおいて平成28年度の第2回地区集会を開催しました。

当日は、市長や副市長、市職員等含む総勢約100人が出席し、小学生は放課後をどこでどのように過ごしているのか、地域の環境や現状の様々な課題等について、グループトーク形式で有意義な意見交換を行うことができました。

今後も小学生の放課後の居場所について、関係団体と共に議論を継続してまいります。



最初に、市長から市全体の課題や進めていることについてのお話をいただきました。

その後、今回の地区集会でこのテーマに至った経緯を青少年健全育成部会の三背協力員からご説明いただきました。

そして、6班に分かれて参加者同士のグループトークがスタート。そこに、市長・副市長らがグループを回り、参加者と意見交換・交流をしていただきました。主な話題としては、子どもの遊び場と見守る環境、公園の使い方等についての意見が交わされました。詳細は中面をご覧ください。

■市長・副市長のコメント■



《鈴木市長》皆さんはまさしくマルチパートナーシップの担い手。皆さんの意見を大切にしながら、行政を作っていきます。



《宮治副市長》今までの意見交換会で各地区を回ってきたが、グループトークを行ったのは片瀬地区だけだった。片瀬地区は住民自治に関して非常に意識が高い。色々な地区を回ってきて、様々なご意見・提案を伺う中で新しい課題等も見えてきたので、もっと勉強していきたい。



《小野副市長》グループトークに参加してみて、強い想いを感じることができた。社会が子どもを大人に育てていくものだが、その環境を作るのは行政の役割である。こういった地区単位のご意見から市政全般が形成されていくものであるため、ローカルからグローバルに物事を作っていく。

※) 「なぜPart 2なの？」と思われる方へ

平成27年10月に「片瀬地区に暮らす子ども達にとって必要な環境とは何か」をテーマとして、市長とも意見交換ができるグループトークを行いました。今回はその続編(第2弾)として、片瀬小学校児童、保護者アンケートの結果も踏まえ、「放課後の居場所」にテーマを絞った地区集会を開催しました。

ご出席の皆さま、ありがとうございました(協議会一同)

各グループトークの結果報告

《1 班》

- 児童クラブを卒業した後、地域の担い手になれるような仕組みがあると良い。
- 片瀬山市民の家では、受付当番がいる。他の市民の家も同じようなシステムになると良い。特に片瀬小学校に近い片瀬浪合市民の家が学校開放の拠点になると良い。
- 子どもの居場所の見守りをする人を育てるコーディネーターが必要で、行政がその核を担ってほしい。



《2 班》

- 雨の日でも遊べるような屋根がある遊び場、トイレ・時計がある遊び場、見守りをしてくれる人がいる遊び場がほしい。
- 片瀬小学校及び片瀬浪合市民の家を効率的に活用し、低学年は片瀬浪合市民の家で、高学年の授業が終わるまで、待機場所として宿題等ができるようにすると良い。
- その事業を運営する上で、核となる運営母体をどうするか、また実際の運営メンバーをどのように確保していくかが課題である。
- 地域の色々な方々の協力を得ながら少しずつ取り組んでいこう。



《3 班》

- 片瀬海岸にこどもらんどのような施設が欲しい。空き家を活用できれば良いのだが、予算・人材の面で実現が難しい。
- 公園に、子どもが遊ぶ遊具が欲しい。
- 子どもの居場所には、子どもを見守ってくれる人がいると安心できる。シニア世代からは協力しますとの声があった。
- 学校を開放する場合、学年ごとに優先順位を作ったら、学年内の交流になるのではないか。



《4 班》

- アンケート結果から、子どもの家や公民館の利用が増えて、地域に子どもたちが出てきたのは良いこと。子どもが公共マナーを学ぶチャンスとしたい。
- しおさいセンターに貼ってあるポスターは禁止事項ばかりで大人が見ても不快になる。
- 片瀬小学校や片瀬浪合市民の家を有効活用したいが、子ども達を見守る人が必要である。PTAの方も参加していけたらと話し合っている。
- 課題はあるが、子ども食堂、片瀬山コミュニティハウスも地域コミュニティの場として、親子共々笑顔になっているので、今は良しとしたい。



《5 班》

- 公園内のボール遊びは禁止されていると思っていたが、公園課長によれば、迷惑にならない範囲であれば、状況に応じて行っても良いとのこと。
- 子どもたち自身がルールを考え、近隣住民の気持ちも考え、お互いを思いやりながら使える公園が出来れば良いと思う。
- 面積が広い公園であれば、自主的に使うことができるので、ボール遊びができる公園として、試験的に実施してみてもどうか。
- 学校等で、子ども達が使い方を話し合い、率直な意見が聞ける場がほしい。
- 山本公園などは、自然を活かしてアスレチックのような設備が欲しい。



《6 班》

- 公園ごとにできるものを決めたら良いのでは、特にみどりの広場は球技ができる場にしてはどうか。
- 母親が働いている家庭も多く、家に居場所が無くなった子ども達が公園でゲームをするようになったのでは。
- 江の島に公園がなく、オリンピックの整備と一緒に公園を作ってほしい。
- 公園のルール作りについて、どのように進めたら良いか、取り組みやすい公園を選びモデル案を作って、話し合いの場を設けるところから始めてみてはどうか。
- アンケートで子どもたちにどんな遊びをしていて、どんな遊びをしたいのかを聞いてみてはどうか。



片瀬小学校アンケート結果 (抜粋)

○放課後の遊び場と、遊ぶ際の人数について

全てのアンケート結果をお知りになりたい方は、ポータルサイトへどうぞ！



片瀬・江の島まちづくり協議会 検索

アンケート内容

小学2年生から6年生を対象に、放課後の遊び場10箇所からよく遊ぶ場所3箇所を選択してもらい、遊ぶ際の人数についても回答してもらった。※16年前にも同様のアンケートを実施

16年前との比較

男子は片瀬公民館・片瀬しおさいセンターが選択数・平均人数共に大幅に増加した。女子は、こどもらんどの選択数・平均人数が増加した。

